

あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和5年3月31日 237号
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



気付きと進化

園長 天良 昭彦

年度末を迎え、日々桜のつぼみが開花していく様子がうかがえます。この冬も記録的な寒波や日本各地からの大雪の報道を見聞きしましたが、近隣での影響はなく、改めて伊豆の住み良さを実感しました。

令和四年度は、コロナ禍にもかかわらず、歴史の節目として施設創立五十周年記念式典が開催できたことは大変有難く、関係の皆様には心から感謝いたします。

学園園舎は平成十三年に全面改築以来二十二年が経ち各所修繕が必要な状況です。施設の長寿命化を計るため昨年度策定した「短期・長期修繕計画」に基づく初年度として修繕が始まりました。今後、大なり小なりの修繕が計画に従って毎年度実施される予定です。

コロナの感染状況が現在落ち着いている中で、マスクの着用は個人の判断が基本となり、感染法上の位置付けが五月八日に「五類」に変更されることとなっています。当施設におきましては、位置付け変更後もある程度の感染流行は繰り返されるこ

とを見込み、一定の対策は継続したと思います。コロナ禍前より季節性インフルエンザのシーズンにはマスク着用等、感染対策を実施してきたので特別なことはありません。入所施設ではコロナに限らず感染症に對して一般社会以上の感染対策が必要な事はご理解下さい。

ここまで三年以上のコロナ禍は、かつしてマイナス面だけではなかったと捉えています。リモート会議等、多様なオンライン活用の浸透。BCP（事業継続計画）の作成、医療との連携の重要性、施設は社会との関係の中にあることの再認識。そして、進化することに対する意識等。また、感染対策に取り組む中で職員間の絆も強まったと感じています。

新たな試みとして、ご家族との接点を作るべく自宅の近い利用者を数人のグループに分け車で同行し、それぞれの自宅や近隣まで外出を兼ねた面会を企画したところ、ご家族から大変好評でした。施設の立地的に高齢のご家族では施設に来園されることが困難になりつつあることを認識したコロナ禍でもありました。今年度を振り返り、新たな気付きと懸案事項を整理し、新年度を迎え進化していきたいと思ひます。

令和五年度当初予算について

総務課長 山口 深志

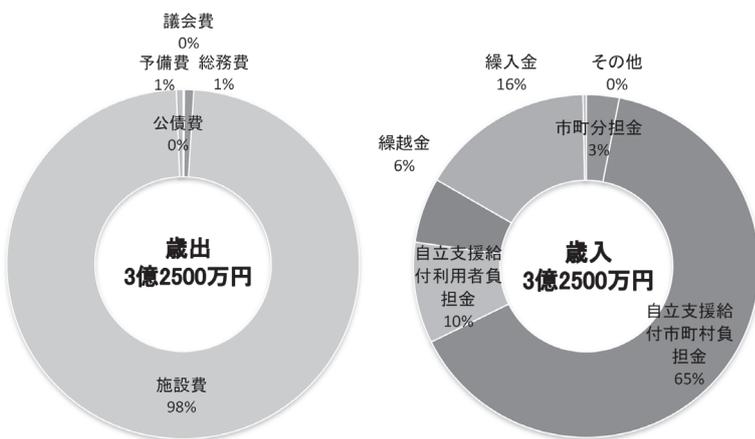
令和五年度当初予算が、去る令和五年一月十八日の組合議会において可決成立しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ三億二千五百万円を計上し、前年度と比較すると一千五百万円、約四・八%増額となりました。

主な予算科目について説明します。歳入ですが、駿豆学園の収入の約六割を占める、自立支援給付市町村負担金を前年度比五百万円、約二・四%増額の二億一千万円を計上しました。職員の研修など一定の条件をクリアして算定できる加算を請求しているため、安定した収入となっています。令和五年度についても歳入不足が見込まれます。基金繰入金を財政調整基金、施設整備基金の合計で、前年度比八百万円、約十七・八%増額の五千三百万円を計上しました。

次に歳出ですが、議会費、総務費については大きな変化はありません。施設費について、前年度比約一千六百万円、五・二%増額の三億二千万円を計上しました。修繕

計画に基づく施設長寿命化工事費を約四千万円計上し、燃料費の高騰により、電気料などを、それぞれ増額しました。

新型コロナウイルス感染症予防のための医薬品や備品の備蓄も充実していることから、備品購入費等は例年並みの予算計上となっています。夏の猛暑や自然災害なども心配されますが、利用者の皆さんが、安心、安全、快適な施設生活が送れるように、適切な予算執行を行ないます。



一年を振り返り

支援課長 木村 悦治

新たな職務につき早いもので一年が経ちます。支援の現場においては、新型コロナウイルスの影響を受けることもありましたが、一方でコロナとの共存をどのように実践していくかを確かめる年であったように思います。行事においては、運動会、駿豆ふれあいフェスティバル、クリスマス会、やよいの会をそれぞれ職員・利用者全体で行うことができて、感染対策により従来の形に近づけていく足がかりとなりました。

年度の後半、大地の活動は組木やパズルの木工作業に力を入れてきました。伊豆市社会福祉大会が開催され、久ぶりに出店をすることができ、また個別の注文もあり受注も増え始めてきました。農作業はイノシシによる被害に悩まされ、ここ数年作付けができない状況でしたが、金刺元園長先生のご厚意により、畑の一部でさつまいもの栽培をさせて頂きました。十月に収穫し、駿豆ふれあいフェスティバルでは焼き芋として、またおやつクラブでの食材としても提供し利用者の皆さんにも大変好評

でした。

あおぞらは一年を通じて歩行活動を頑張りました。坂道が大変になってきた利用者さんも季節を感じながら、各コースに分かれて行いました。頑張りの後には楽しみあり、外出では、テイクアウトメニューを開拓し様々なジャンルの食事を提供することができました。利用者の皆さんが最も楽しみにしている活動であり、来年度は更に足を延ばしていきたいという、計画していきたいと思えます。

クラブ活動では一月に美術・おやつクラブが合同でどんど焼きを行いました。年明けの恒例行事として、団子作り、枝差し、焼きの工程を職員と共に楽しみ、無病息災をお祈りしました。そしてリフレッシュツアーは新型コロナウイルスの感染状況により企画が難しい所もありましたが、市内のキャンプ場や新しくできたレンタルスペースを利用し食事や癒しのひと時を過ごすことができました。少しずつ前にを合言葉に、本年度も様々な活動を行ってきました。何ができるか、どうしたらできるかを考え実践し、感染対策を踏まえて更

元通りとは言えないけれど

看護師 山田 美津子

三年前のコロナ発症から比べ少しずつ元の生活に戻り始めています。感染対策の大切さを再確認し、過剰な対策は必要ない事を学びました。

ふと、ナイチンゲールのクリミア戦争での功績を思い出しました。患者が床に並べられ消毒していかない汲み置きの水と生茹での肉が与えられ、患者の横をネズミが当たり前のように通り過ぎる有様に衝撃を受け次々と改革し状況を一変させ死亡率を二%まで低下させたのです。それが【看護覚え書】で「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさ、などを適当に整え、食事内容を適切に選択し適切に与えること。こういったことのすべてを、患者の生命力の消耗を最小限にするように整えること、を意味すべきである」

感染対策の重要性を唱え、病気や怪我から命を守る。昔も現代も同じだということですね。元の生活には戻れないかもしれないけれど、きちんとした生活環境を整え気持ちよく生活できるように努めていき、みんなですつと元気に過ごしたいですね。

給食だより

栄養士 鍵山 智美

年末から始まった、新型コロナウイルスの集団感染。いざ感染が広がってしまったとバタバタとしてしまい、何かから手を付けていいのかわからず、右往左往するような状態でした。それでも一日三食の食事をちゃんと提供しようと、厨房職員みんなで体調管理に気を付け、感染することなく無事に対応する事ができました。常に危機感を持ち、業務にあたらなければと痛感した年末でした。



日中活動



大地班 さつまいも作り
がんばりました



アルミ缶作業



あおぞら班



土肥桜満開



富士山と共に



外出風景

今年もたくさんおでかけしました。



おやつ



スポーツ



各クラブ活動風景

美術



音楽





ふれあい広場

― 善意を寄せられた方々 ―

- 土肥クリニック様
 - 松島(株)様
 - セブンイレブン伊豆市土肥店様
 - 八木沢郵便局様
 - 龍泉寺様
 - 土肥神社様
 - 原浩紀様
 - 金刺甚一郎様
- 皆様のご厚意に御礼申し上げます

【お知らせ】

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したりモートでの面会も実施しております。駿豆学園ホームページでもあすなるを閲覧出来るようになっていきます。アドレスは

www.sunzugakuen.jp/ になります。ぜひ御覧ください。

編集後記

この間までの寒さがうそのように、日中は暖かな日が射し、すっかり春めいてまいりました。来年度も利用者の皆さんの声に耳を傾け、楽しく充実した日々が過ごせるよう支援していきたいと思えます。